

研究課題名	職業性胆管癌症例の臨床的解析；多施設参加臨床研究
研究の意義・目的	<p>2012年、大阪の印刷事業所で若年発症の胆管癌症例が多数確認されました。その後当科を中心に本事例に対する臨床病理学的特徴を解析してきたことで、1,2-ジクロロプロパンあるいはジクロロメタンの長期間、高濃度曝露を受けたことが胆管癌発症に影響していた点、曝露終了後長期間にわたって大型胆管の広範囲に慢性炎症および前がん病変が確認されることなどが明らかになりました。これまでの研究結果をもとに、現在、印刷事業所においてこれら塩素系有機溶剤の曝露を受けた胆管癌は、厚生労働省により職業性胆管癌として労災認定されています。また、WHOにより、1,2-ジクロロプロパンはGroup1(発癌性あり)、ジクロロメタンはGroup2A(おそらく発癌性あり)に分類されています。</p> <p>引き続き1,2-ジクロロプロパンやジクロロメタンに対する長期間高濃度曝露が要因となった職業性胆管癌症例の臨床像、臨床検査値、病理検査所見、臨床経過を検討することは、適切な診断法や治療法の確立にあたり重要であり、その治療成績の向上につながることを期待されます。</p> <p>なお共同研究機関から大阪公立大学に提供いただいた病理プレパラートは加工の上で金沢大学 人体病理学教室に提供し、解析していただきます。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2028年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	1996年1月～2028年3月に下記の研究機関で、職業性胆管癌と診断された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 患者基本情報：年齢、性別、曝露期間、併存疾患</li> <li>② 血液検査結果</li> <li>③ 治療情報：手術術式、手術時間、出血量</li> <li>④ 病理組織学的情報：HE染色標本、研究目的の免疫染色追加および同標本</li> <li>⑤ 画像情報：CT検査所見、MRI検査所見</li> </ol>
試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名(提供元について)	<p>公立大学法人大阪 大阪公立大学 理事長 福島伸一          国立病院機構 大阪医療センター 院長 松村泰志          大阪赤十字病院 院長 坂井義治          堺市立総合医療センター 院長 大里浩樹          春日井市民病院 院長 成瀬友彦</p>
提供する試料・情報の取得の方法	診療の過程で得られた試料の残余検体、診療の過程で得られた診療情報
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究責任者	<p>研究責任者          氏名：佐藤 保則          研究機関名：金沢大学 人体病理学教室</p>
試料・情報を利用する者の範囲	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 木下 正彦          金沢大学 人体病理学 佐藤 保則</p>

	大阪医療センター 肝胆膵外科 酒井 健司 大阪赤十字病院 消化器外科 森 章 堺市立総合医療センター 肝胆膵外科 宮本 敦史 春日井市民病院 小林 真一郎
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 金沢大学 人体病理学
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 (担当者氏名) 木下 正彦 電話番号：(06) 6645-3841 メールアドレス：p211752h@omu.ac.jp